

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学附属照ヶ丘幼稚園

1-1. 教育方針

○ゆとりある環境・ゆとりの保育

幼児のところに育って欲しいと願っていることは、自分の力を信じて、何にでも挑戦してみようという積極性や意欲です。家庭から幼稚園という大きな集団に入り、その中で先生や友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることが『生きる力と思いやりの心を育てる』基礎になります。

それは他者から強制されるものではなく、幼児が自らの関心や興味をもった中から培われていくものです。そのためには、豊かな環境を提供することが園の役割と考えています。豊かな環境とは充実した設備と情緒豊かな保育者との人的環境、学びごたえのある学習環境です。

これらを踏まえ、遊びを通して幼児期に必要な体験、とりわけ「本物に直接触れる」経験を大切にした教育を目指しています。

1-2. 教育目標

○「生きる力」と「思いやりの心」を育てる

- ・楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- ・人と物の関わりの中で、自らを発揮し、考えたり試したり工夫したりする。
- ・周囲のさまざまな環境に好奇心や探求心を持って関わり、意欲的に活動する。
- ・協力することの大切さや、他者の心情を感じ取ったり、お互いの心情をぶつけ合ったりすることで得られる共感性を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

1 教員一人一人の資質や指導力の向上、保育内容の充実と資質向上を目指すとともに、養成校としての役割と使命を持つ。

- ① 定期的な学年会議、職員会議を行い職員間の交流の中で自らを振り返る機会を持つ。
- ② 大学と連携した教育活動を展開し、保育内容の充実と資質向上を目指す。
- ③ 実習に来られる学生一人一人に寄り添い、指導・育成を行う。
- ④ 研修への参加や年度末に自己評価を行うなど教員の資質の向上を目指す。

2 安全管理における環境や、健康管理の対策への取り組み

- ① 園児の健康観察及び予防に努める
- ② 園全体における感染症対策の徹底
- ③ 園全体における安全対策の徹底

3 地域の子育て支援拠点の充実と園児募集に向けた取り組み

- ① おやこ教室のPRを積極的に努め、園庭・保育室開放にきた保護者への相談・支援を行う。
- ② 園内外に向けて、本園の取り組みや魅力を広く発信していく。

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	結果	理由
1 ① 定期的な会議	A	より良い保育のために、子どもたちの様子や出来事、保育の進め方などを毎日話し合い、保護者からの意見や相談も共有できるように努めた。
② 大学と連携した教育活動の展開	A	大阪芸術大学の専門教員による音楽や体育指導、柔道、お茶、作陶教室など質の高い学びを展開し、日々の保育へと繋げていくよう努めた。
③ 実習生の育成	A	指導方針を職員間で共有し、学生に寄り添い適切な育成に努めた。
④ 研修や自己評価による教員の資質向上	A	研修への参加や、附属4園で研究発表など、学びの機会を多く持った。また、年度末には自己評価を行い保育の振り返りが出来た。
2 ① 園児の健康観察	A	登園時に健康観察を実施している。また、子どもたちの様子を観察し、体調の変化が見られた時は適時保護者に伝えている。
② 感染症対策	A	・手洗いの推奨と職員室、保育室、などに消毒液の設置 ・清掃の方による階段の手すり、扉などの随時消毒 ・定期的な遊具や玩具、机やいすの消毒
③ 安全対策	A	・総合遊具の安全点検・常駐警備員と防犯カメラの設置 ・登降園時や体育館への移動の時など、短期大学の警備員との連携 ・東住吉区役所の方による安全講習会の実施 ・避難訓練を毎月実施・消防署の方による消火訓練や通報訓練の実施
3 ① 子育て支援	A	園庭、保育室開放や未就園児向けおやこ教室の開催を増やした。区役所への案内配布、HP や SNS、タウン誌や情報誌で周知を行った。
② 園児募集に向けた取り組み	B	デジタル媒体による情報発信や地域イベントへの参加等を通じて園の魅力を発信したが、園児数の増加にはつながらず、募集活動のさらなる工夫が課題である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	・自己点検、自己評価の実施で保育の振り返りができた。 ・外部研修に積極的に参加し、学びの機会を多く持つことができた。 ・大学の専門教員による質の高い学びと充実した保育内容に努めることができた。 ・実習生を受け入れ、職員間で連携しながら適切な指導を行い、育成目標を達成した。 ・必要な感染対策は継続して行い、健康観察・感染症対策に努めた。 ・保護者とのコミュニケーションを大切にし、幼稚園への安心や信頼につながるよう努めた。 ・クラスだよりや HP、SNS、Google マップ等を活用し、園の様子や魅力の積極的な情報発信に努めた。 ・未就園児向けおやこ教室や園庭・保育室開放の周知を、デジタルと紙媒体の両方を利用して周知を行ったが、参加者増加にはつながらず、さらなる周知が課題である。

◎「3.4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分ではない
D	取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全管理の意識向上	毎月の避難訓練を通して緊急時における対処法について、今後も、職員間で共通認識を持つよう努めていく。 遊具の点検、園全体の環境整備を徹底し、事前に怪我を防げるようにしていく。
園のPRと園児数の確保	HP や SNS、地域情報誌等を活用し、園の魅力発信や広報活動を継続して行う。 未就園児向けのおやこ教室や園庭・保育室開放、園内見学等を継続して実施し、地域の方が気軽に来園できる環境づくりに努める。

6. 学校関係者の評価（総評）

- 担任以外の先生も子ども達のことをよくわかってくださっている感じが伝わる。
- 子ども達から園の話をよく聞くので、毎日行くことを楽しみにしていることがわかる。
- のびのびと育ち、園で経験したことをしっかり吸収していることが感じられる。
- 遊びながら本物に触れて体感することは大切で、その感覚に知識が繋がっていく。
- 縁日ごっこが楽しかったので、保護者が一緒に参加できる行事が増えると嬉しい。
- 大きな舞台での音楽会はとても貴重な経験になり、一番思い出に残っている。
- 両親が仕事をしている場合、夏休みがある園への入園は難しいとの声を聞く。
- 半日保育の期間が長く、4月の半日保育は年少組だけで良いのではとの意見がある。
- 開催される「照ヶ丘フェスタ」でのアプローチは区役所を介しても良いのではないかな。
- 毎月避難訓練を行うことで、子どもが自分で考えて行動する力がついてくる。

7. 公開保育について

実施日時	令和7年11月17日（月） 10時～12時
実施場所	大阪芸術大学附属照ヶ丘幼稚園 1階保育室
保育者	あやめ組（年中）担当教諭
テーマ	不便を考える
指導助言者	大阪芸術大学短期大学部 保育学科 教授
参加者	大学教授、小学校教諭、幼稚園園長・副園長・職員、育友会会長
総評	不便を知るというテーマにした着眼点がすごいと思いました。昭和の雰囲気を感じられて、物の使い方などを知ると、防災など困った時にも役立つのではと思いました。SNSなどで見たことはあるが、実際に使ってみる機会はなかなかないと思うので、子ども達にとって良い経験になったのではないかと思います。第三者から見て危険と感ずることがありましたが、子ども自身が危ない箇所などに気付いてセーブする姿が見られました。子ども自身が学んでいる姿を見ることが出来、この経験を通して問題解決能力を身につけているということを感じました。少し難しいことを知る喜びを感じている姿や、考える・工夫するプロセスがよく見られました。小学校までに学んでおいてほしいことがたくさん折り込まれている保育だったと感じます。幼稚園と小学校のつながりが大事なことが感じられました。今日の保育では、子ども達が自然につぶやくことができる環境があり、子どものつぶやき全てに先生がリアクションされていたので、温かく感じました。否定的な発言や、子どもの意見を止めるようなことがなく良かったです。先生が子ども達のことをよく理解していることが分かりました。子ども達とのつながりを大切にされていて、子ども達が安心して過ごす姿が見られました。